

重要業績評価指標（KPI）の達成状況について

基本目標1 活力と交流のある、住みたいまちづくり

(1) まちの活性化と生活環境の向上

①瀬戸内の交通結節点としてのポテンシャルの活用

施策	施策の概要	重要業績評価指標（KPI）					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)			
1	-	JR坂出駅の1日あたり乗車人員	5,168人	5,257人	5,244人	5,500人	-	<p>微増ではあるが、四国内では県庁所在地に次ぐ5位となっている。</p> <p>【平成28年度】</p> <p>1位 高松 12,832人 2位 徳島 8,187人 3位 松山 7,135人 4位 高知 5,276人 6位 丸亀 3,976人</p>	坂出駅北口駅前広場の拡張再整備など、県内屈指の交通アクセスの良さを誇る本市の強みをさらに向上させ、目標の達成を図る。
2	企業立地促進助成金	<p>市内に工場等を設置する企業に対し助成措置を講ずることによって、その立地を促進し、本市における地域経済の発展、産業の高度化および活性化ならびに雇用機会の拡大を図るとともに、にぎわいを創出し、もって市民生活の安定向上に寄与することを目的とする。</p>	<p>利用件数 (直近5年の件数)</p> <p>12件</p>	14件	13件	15件	<p>企業立地推進室</p>	<p>実績（利用件数・市内新規常用雇用者数・助成金額）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度：3件・18名・132,461千円 平成25年度：4件・19名・119,235千円 平成26年度：4件・36名・149,756千円 平成27年度：2件・8名・43,034千円 平成28年度：0件・0名・0千円 <p>平成28年度分として2件助成予定であったが、業務開始が当初予定より遅れたことから助成件数は0件であった。</p>	<p>例年数件の助成実績があり、当該制度の定着に伴い、今後も雇用機会の拡大を図る。</p>
		<p>企業立地促進助成金を利用した市内新規常用雇用者数 (直近5年の件数)</p> <p>84名</p>	92名	81名	100名				

②都市の整備と地域公共交通の利便性向上

施策	施策の概要	重要業績評価指標（KPI）					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等	
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)				
3	循環バス運行事業	市街地の公共施設、総合病院、商業施設等を循環するバスの運行を支援することで、市街地の回遊性を向上させる。	利用者数 (人/年)	29,520人	47,210人	50,679人	52,700人	都市整備課	平成26年10月から運行ルートを2ルート化したことや、平成28年10月からの運行便数や時刻の変更等、利用者のニーズに応じた運行形態改善の取組により、利用者数が増加した。 また、公共交通マップの作成や、車内における児童画やバルーン展示等のソフト面の取組も行い、利用促進を図った。	今後とも利用者のニーズを分析し、ソフト面での取組を継続し、利用促進を図る。
4	デマンド型乗合タクシー運行事業	郊外の公共交通空白地帯と市街地とを結ぶデマンド型乗合タクシーを運行を支援することで、高齢者等の生活の足を確保する。	利用者数 (人/年)	1,093人	3,914人	3,708人	3,900人	都市整備課	乗降場所を新設する等、公共交通空白地帯のニーズに応じた改善を行うことで、利用促進を図った。	今後ともデマンド型乗合タクシーの利便性向上に取り組む。

③社会資本の維持管理と既存公共施設の利活用

施策	施策の概要	重要業績評価指標（KPI）					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等	
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)				
5	橋梁管理	今後増加する老朽化した橋梁に対して定期点検や予防的・計画的な修繕工事を実施し、橋梁の長寿命化を図るものである。	市道における橋梁の補修箇所数	24橋 (H24～26)	1橋 (H27)	5橋 (H27～28)	121橋 (H27～31)	建設課	【事業の進捗状況に関する評価】 事業進捗を図っているところであるが、目標値には達していない。 【KPIの増減理由】 ・当初の想定より老朽化が進んでおり1橋当りに掛かる整備費用が高くなっている ・人件費・材料費・諸経費が増となっている。	【課題】 橋梁の整備には膨大な事業費が必要となるため、予算の確保が課題である。 【今後の方針】 橋梁点検や予防的な修繕を実施することにより、橋梁を計画的に維持管理し、長寿命化によるコスト削減を図る。

(2) 坂出の魅力発信とファンづくり

施策	施策の概要	重要業績評価指標 (KPI)					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等	
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)				
6	まちあるき事業	坂出市観光協会等で実施している、まちあるき事業を実施することで、本市の魅力を再発見してもらう。	ツアー参加者数 (人/年)	814人	776人	586人	1,000人	にぎわい室	平成26年度は、記念事業として特別に設定したコースが複数あったため、参加者数が多かった。近年は、本市の魅力の再発見に繋がりにくいコースを廃止したため、参加者数が減少している。	引き続き、坂出市の魅力を県内外にPRできるまちあるきコースを造成するとともに、参加者数の少ないコースの見直すなど、交流人口の拡大を図っていく。
7	ホームページ運営	市政の情報発信の手段の一つとして、正確な情報をわかりやすく、リアルタイムに提供する。	市ホームページのアクセス数 (件数/年)	262,417 アクセス	236,998 アクセス	220,261 アクセス	300,000 アクセス	秘書広報課	KPIの指標として用いているアクセス数はトップページの閲覧数であり、年々減少している現状にある。 一方で、ホームページ全体のアクセス数は、H26 608,433件、H27 644,191件、H28 645,572件と増加傾向にある。	これまでも、携帯サイトの開設や音声読み上げソフトの導入、新たなバナーボタンの設置など、利便性の向上を図ってきた。平成27年度にはスマートフォン対応のホームページを運用開始することで、情報の快適な閲覧・提供を図るなど、改善を重ねているところであり、さらに、今年度のリニューアルにより、より見やすく、利用しやすくすることでアクセス数の増加を図る。
8	ふるさと坂出応援寄付	ふるさと坂出を想い、応援しようとする人々から寄付金を募り、これを財源として各種まちづくり事業を実施し、いつまでも光り輝き続ける豊かな活力のあるふるさとづくりに資することを目的とする。	ふるさと坂出応援寄付件数 (件数/年)	18件	101件	2,072件	100件	企業立地推進室	実績（寄附件数・寄附額） ・平成24年度： 12件 2,540千円 ・平成25年度： 10件 2,635千円 ・平成26年度： 18件 41,805千円 ・平成27年度： 101件 5,160千円 ・平成28年度： 2,072件 43,527千円 平成28年度より専門業者に委託し、ふるさと納税専用サイトの利用やクレジット決済を導入するとともに、返礼品の数を約100品目に増やした結果、件数・金額ともに大幅な増加が見受けられた。	季節ごとの新たな返礼品の充実や、本市を訪問しての体験型を返礼品として検討するなど、更なるPRに努めていく。
9	さかいでブランド認定制度	坂出市にゆかりのある商品を「さかいでブランド」として認定し、市内外に情報を発信することにより、本市の知名度の向上、産業の振興および地域の活性化を図る。	さかいでブランド認定件数	68件	77件	58件	100件	産業課	様々な機会を捉えてPRを実施してきた中で、市内に強い商品、市外に強い商品が見えてきたことから、商品を選択した効率よい情報発信が可能となった。 なお、認定事業者ごとの認定品の集約を実施したことから、平成28年度の実績現状値が当初値より減少している。	新たな地域ブランドが創出されれば、それを原材料または加工した商品が生まれてくるものと思われ、それに伴い新たな連携が展開される可能性がある。 商品の情報発信イコール坂出の魅力発信ではないので、どのように情報発信するのか工夫が必要である。

(3) 移住・定住の促進

①移住の促進

施策	施策の概要	重要業績評価指標 (KPI)					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)			
10	新婚世帯家賃補助事業	<p>坂出市内への移住定住促進を図り活力あるまちづくりを進めるため、坂出市内の民間賃貸住宅に居住する新婚世帯に対して家賃補助金を交付する。</p> <p>月額1万円以内 最長24か月</p>	新婚世帯家賃補助事業を利用した市外からの移住者数 (人/年)	46人	74人	120人	60人	<p>政策課</p> <p>当該制度開始当初は、平成26年度から平成28年度までの3年間限定の予定であったが、一定の成果が認められることから、平成31年度まで継続実施することとした。 平成27年度は74人・平成28年度は120人と、当該制度の定着および利用者数の増加に伴い、当該制度を利用した移住者数は年々増加傾向にある。</p> <p>【事業費】 平成26年度 328万円 平成27年度 1,007万円 平成28年度 1,521万円</p>	<p>当該制度は市内在住者も利用可能であり、利用者数の増加に伴い、事業費も増加していくため、費用対効果にも留意しつつ、事業の成果を見極めながら、平成32年度以降の事業展開について検討していく。</p> <p>【事業費】 平成26年度 328万円 平成27年度 1,007万円 平成28年度 1,521万円</p>
11	空き家バンク	<p>県及び市町で構成する香川県移住・交流推進協議会と、香川県宅地建物取引業協会並びに全日本不動産協会香川県本部が協定を結び、連携して空き家等に関する情報の登録、提供を行うもの。</p>	香川県空き家バンクサイトに登録されている市内物件数	16件	19件	8件	20件	<p>政策課</p> <p>平成27年度までは、香川県のHPに加え、協定を締結している香川県宅地建物取引業協会及び全日本不動産協会香川県本部のHPに掲載している物件もカウントしていたが、平成28年度からは、「香川移住ポータルサイトかがわ暮らし」に掲載されている物件数に統一したため、数値としては減少した。</p>	<p>空き家問題に関する報道の増加等により、近年は市内に物件を有する県外在住所有者からの問い合わせもあるなど、空き家バンクへの関心が高まりつつあることから、今後とも、県と連携した周知等に努める。</p>
12	まちなか中高層住宅建設促進事業	<p>坂出駅周辺の中心市街地における快適でまちなかにふさわしい住まいの供給を促進するため、区域内に基準に適合した中高層住宅を建設する者に、建設にかかる費用の一部を補助金として交付することにより、定住人口の増加を図り、もってコンパクトなまちづくりを推進する。</p>	まちなか中高層住宅建設促進事業補助金を利用した建設戸数	-	-	0	50戸	<p>企業立地推進室</p> <p>当補助事業を創設した平成28年度は複数の事業者から問い合わせがあったところであるが、申請には至らなかった。</p>	<p>補助対象区域において、助成要件を満たす用地(500㎡以上)の確保が難しい状況ではあるが、現在、1事業者から申請書が提出されている状況であり、引き続き当制度の周知を図るなど、事業者等の利用促進に努める。</p>

②若者の定住促進

施策	施策の概要	重要業績評価指標（KPI）					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等	
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)				
13	就職フェア	若者の坂出市内企業へのUJIターン就職を推進するとともに、活性化の担い手となる若い世代の労働者の確保を図り、将来的な市の人口増につなげることを目的とする。	就職フェア参加者のうち市内企業への就職者数	5名 (H25～26)	4名 (H27)	H29.12月頃調査予定	15名 (H27～31)	企業立地推進室	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況（参加企業・参加者数） 平成25年度：19社・116名（H25.12月） 平成26年度：20社・32名（H26.8月） 31社・167名（H27.3月） 平成27年度：26社・31名（H27.8月） 32社・65名（H28.3月） 平成28年度：32社・70名（H29.3月） 面接などの選考活動スケジュールの変更や、学生有利の売り手市場により8月の参加者数が減少したことから、年2回開催していた就職フェアを1回のみとした。	経団連の採用活動指針に注視しつつ、フェア開催時期等を検討しながら、将来的な市の人口増に繋がるよう今後も就職フェアを開催していく。
14	-	-	ハローワーク坂出の有効求人倍率	1.30	1.57	1.93	1.40	-	全国的に人手不足の売り手市場であり、本市でも年々有効求人倍率は上昇している。	労働力不足が企業活動に大きな影響を与えることが全国的に問題となっている。目標値を大きく超える有効求人倍率となっており、若い世代の労働者の確保が課題である。

（４）交流人口の拡大

①観光を軸にした交流人口の拡大

施策	施策の概要	重要業績評価指標（KPI）					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等	
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)				
15	観光振興事業	観光客の入込客数を増加させることで交流人口の拡大を図る。	観光入込客数 (人/年)	4,038,890人	4,373,000人	4,653,885人	4,400,000人	にぎわい室	本市の魅力をPRすることで入込客数が増加しており、交流人口の拡大が図れている。 平成28年度は、地方創生加速化交付金を活用した「丸亀・坂出周遊観光圏の形成と地域活性化推進事業」として、丸亀市と連携してアートを切り口としたキーワードラリー等を実施した。	引き続き、本市の魅力をPRすることで交流人口の拡大を図っていく。
6	まちあるき事業 [再掲]	坂出市観光協会等で実施している、まちあるき事業を実施することで、本市の魅力を見直し再発見してもらう。	ツアー参加者数 (人/年)	814人	776人	586人	1,000人	にぎわい室	平成26年度は、記念事業として特別に設定したコースが複数あったため、参加者数が多かった。近年は、本市の魅力の再発見に繋がりにくいコースを廃止したため、参加者数が減少している。	引き続き、坂出市の魅力を県内外にPRできるまちあるきコースを造成するとともに、参加者数の少ないコースの見直すなど、交流人口の拡大を図っていく。

②特色を生かした地域づくり

施策	施策の概要	重要業績評価指標（KPI）					担当課(室)	事業の進捗状況に関する評価 およびKPIの増減理由等	課題および今後の方針等
		指標名	当初値 (H26)	H27実績	現状値 (H28実績)	目標値 (H31)			
16	讃岐国府跡探索事業	平成25年2月に讃岐国府跡の所在が確定して以降、毎年香川県埋蔵文化財センターの国府跡発掘調査成果の報告と隣接する開法寺跡の発掘成果を市民、県民の方に報告する機会として、調査報告会を開催し、国府跡への意識の高揚と愛着を図る。	讃岐国府跡調査報告会来場者数 (人/年)	135人	140人	150人	150人	文化振興課	<p>讃岐国府跡の発見当初の新聞報道が大きかったため、現地説明会の参加者数も多かったが、翌年から通常の数に戻り、以後150人から200人ほどを数えており、報告会についても似たような傾向がみられる。</p> <p>平成25年以降、毎年実施していることから、参加者が固定化されている状況も伺える。</p> <p>その年の講師や講演内容によって参加者に多少の増減が見られる傾向にある。実施施設の収容人数等を勘案すると、概ね毎年、収容人数に比較的近い参加者となっている。</p> <p>現状施設で毎年開催を予定していることから、今後は報告会の内容や講師の選定、また講演内容を検討しながら、参加人員を維持をしつつ、緩やかな増加を目指す。</p> <p>また、今後、重要な新発見等がなされ、報道でも大きく取り上げられる際は、参加者も大きく増加することも考えられるので、開催施設の変更も検討する。</p>
17	にぎわい創出事業	本市の魅力をアピールし、にぎわいを創出する効果が高いと認められるイベント事業を公募し、採択された事業を支援する	にぎわい創出事業を契機に定着した事業数	2件 (H25～26)	1件 (H27)	5件 (H27～28)	7件 (H27～31)	にぎわい室	<p>にぎわい創出事業を活用することで市民が自発的にイベント等を実施し、にぎわいづくりに参加する機会を創出できおり、定着した事業数も増えてきている。</p> <p>今後にもにぎわい創出事業により各種事業を支援することでにぎわいの創出を図っていく。</p>